

課題名

29. チャノキイロアザミウマの果樹と周辺植物における発生の関係について

成果の要約

かんきつ園周辺の防風垣として植栽されているいぬまきで増殖した次の世代がかんきつを加害する。

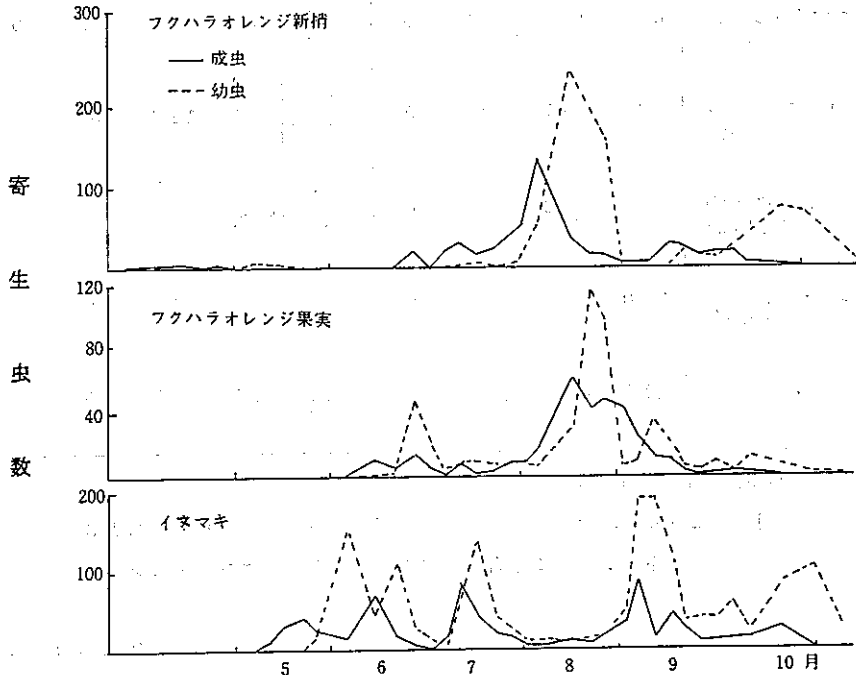
成

寄生数はいぬまき、かんきつともに新しょうの発生時期に多かった。かんきつには越冬成虫から寄生するが、いぬまきには第1世代成虫から寄生する。特にいぬまきには第1世代成虫が多く寄生することから（この時期には新芽のある樹木は少ない）、そこで増殖した第2世代成虫が新しょうの少ない時期である6月中旬頃にどっとかんきつ果実へ集中している。それ以降もいぬまきを含め新しょうで増えた成虫が、新しょうの少ない時期に果実へ寄生する割合が高まるようである。

いぬまきにおける増殖力がかんきつにおけるそれと比べて高いことと考えあわせると、いぬまきにおける発生量が次の世代のかんきつにおける発生量、被害を左右させる大きな要因と考えられ、いぬまきの指標植物としての役割は重要であると考えられる。

チャノキイロアザミウマの発生消長（昭60長崎果試）

績



概

要

普及上の留意点

かんきつ園周辺のいぬまき多栽植地帯における防除対策を強化する必要がある。